

# 人工尿道括約筋植え込み術（AMS800®）

—手術説明書—

北里大学病院泌尿器科

## ■病名、病気の状態、手術名

病名：尿道括約筋障害による重度の尿失禁

病気の状態：

前立腺癌に対する前立腺全摘徐術や前立腺肥大症に対する経尿道的前立腺切除術により、尿道括約筋が傷つくことで男性の尿失禁を認めます。

手術名：人工尿道括約筋植込術（AMS800®）



## ■ 人工尿道括約筋植込術（AMS800®）の現状

人工括約筋は現在世界的にも AMS800®という機種が用いられており、日本においても厚生労働省の認可を得ています。

平成 24 年 3 月まで保険収載されていなかったため 200 万円程度の高額な自己負担を強いられたことより、日本においては十分普及していませんでした。

平成 24 年の 4 月より人工尿道括約筋植込術が保険収載されました。

## ■ 人工尿道括約筋植込術（AMS800®）の概要

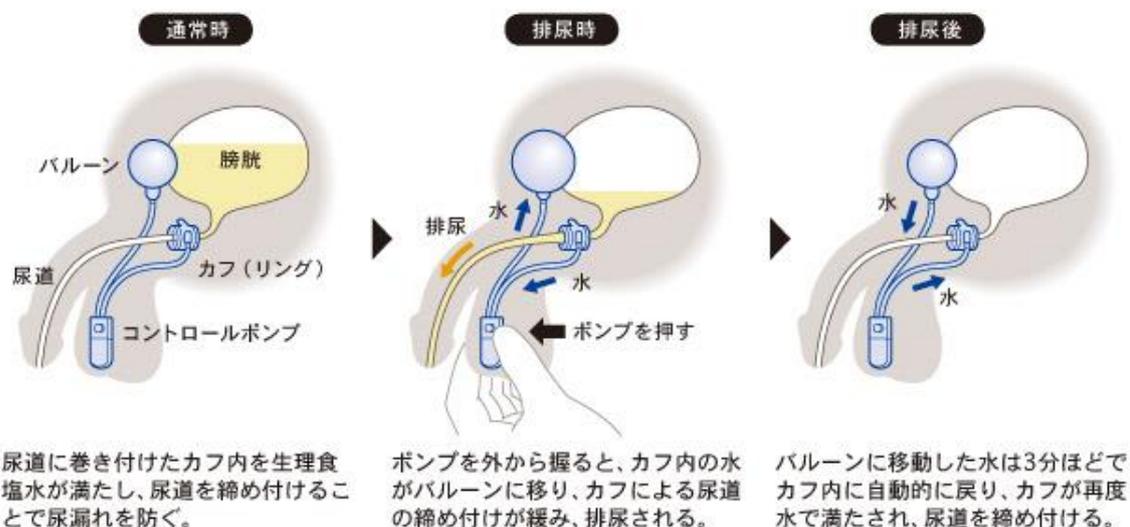
麻酔方法は麻酔科に一任します（多くの場合は全身麻酔と脊椎麻酔で手術します）。

陰嚢の近くと下腹部を切開して、カフ、コントロールポンプ、圧力調整バルーンを植え込みます（次ページ以降の図を御参照ください）。術後約2ヶ月間で使用可能となります。尿意を感じた際に、陰嚢内に埋め込んだコントロールポンプを皮膚の上から押して、排尿します。

## ■ 手術の流れ

- ・手術前夜に、入眠剤、下剤などを服用します。
- ・手術前21時から、飲水・飲食できません。
- ・手術当日に点滴をします。
- ・麻酔前準備の薬を注射して手術室へ向かいます。
- ・麻酔法は、基本的に全身麻酔と脊椎麻酔を併用します。
- ・ふつう、2～3時間で手術を終了します。
- ・術後1～2日目、腸管の動きを確認して食事、歩行を開始します。
- ・術後1～2日目に尿道カテーテルを抜去します。
- ・術後4～5日目頃に退院。
- ・手術後約2ヶ月でAMS800®を使用開始します。

## ■ システムのメカニズム



手術を行った後、2 ヶ月程度尿道括約筋をゆるめたまま動かさずに尿道になじませる必要があります（システム作動休止）。

そのため植込術後は尿失禁が術前と同様に続きます。これを行わずに早期から動かした場合、尿道の萎縮や炎症による括約筋の尿道内への脱出が起こりやすいといわれており、最悪の場合には摘出や再手術が行われる場合もあります。

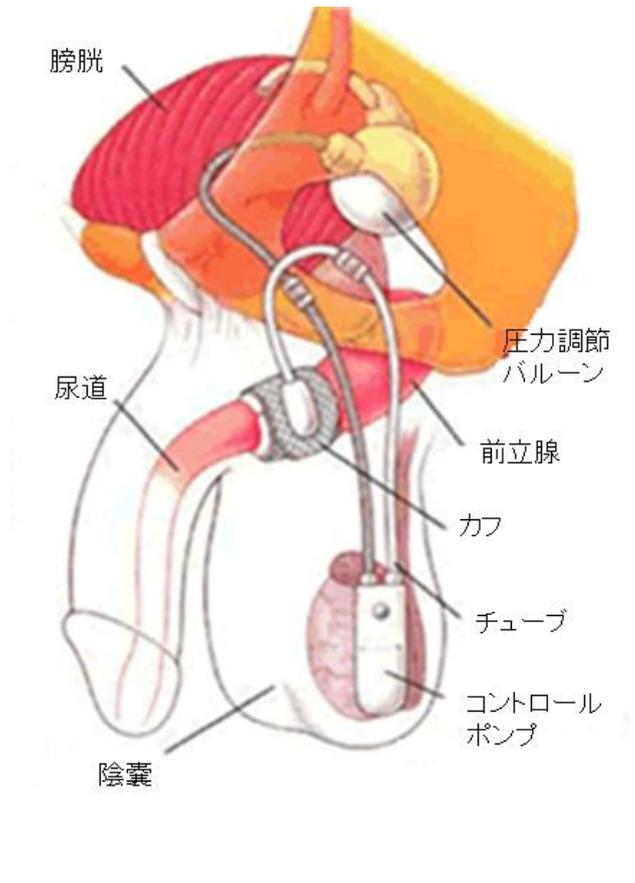
術後 2 ヶ月程度たった段階で人工括約筋を機能させますが、その際には使用法を改めて指導します。必要に応じて短期入院をして頂きます。

## ■ 効果の可能性

これまでの人工括約筋の手術成績の報告は約 90%ではあるものの 100%の有効率ではなく、一部には効果が得られない方もいます。その点をご理解ください。

## ■ 手術の方法

会陰部と単径部（一般的に右側）に切開を加えてこの人工括約筋を尿道のサイズに合わせ植え込みます。



## ■手術の合併症

### 1. 創感染

尿道に異物である人工括約筋を埋め込むため創部の感染には万全の注意を払って手術を行います。人工物であることから完全に感染を予防することは出来ません。

創部の感染が起こった場合には可能な限り抗生剤などで保存的に経過を見ますが、人工括約筋を摘出せざるを得ないこともあります。

### 2. 尿道びらん

尿道に炎症が起こり、びらんが発生することがあります。一時的に人工括約筋の使用を制限することもあります。改善しない場合には摘出が必要となることがあります。

### 3. 機械の故障

人工括約筋は改良により、故障がかなり少なくなっていますが、人工物であることからある一定の割合で故障することがあります。

この場合、再手術が必要となることがあります。

### 4. 長期使用後の尿失禁の再発

長期に人工括約筋を使用している間に尿道自体の萎縮が起こり、十分尿道を圧迫できなくなり尿失禁が再発する可能性があります。この場合、ご希望があれば再度手術を行います。